

11月9日 中舞鶴幼稚園の公開保育を実施しました

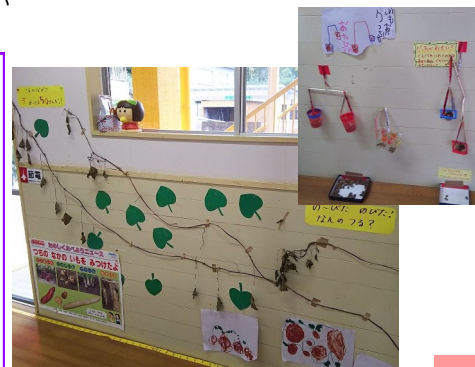
中舞鶴幼稚園において公開保育を実施し、神戸大学大学院准教授 北野幸子先生に指導・助言をしていただきました。

中舞鶴幼稚園の裏山には、どんぐりやしいの実等の木の実がたくさんあり、子ども達が木の枝や木の実、裏山の赤土等の自然物を遊びの中に取り入れて遊んでいました。5歳児は、裏山に秘密基地を作る遊びが継続していたり、4歳児はだんご作りや春から続いている泡遊びなどを楽しんだり、3歳児は、砂や土を使ってお料理したり、ごっこ遊びを楽しんだり、自然と関わりながら自分の好きな遊びを楽しむ姿がありました。

廊下には、さつまいものつるの長さやどんぐりの重さ比べ、葉っぱや木の実の名称等、体験してきたことが子どもにもわかるように展示してあり、工夫が感じられました。室内でも製作やごっこ遊びがいつでも楽しめる環境になっており、特に5歳児は、部屋全体が「おぼけやしき」になっており、遊びが続いている様子も伺えました。

参加園・校

永福保育園	朝来幼稚園
岡田保育園	池内幼稚園
さくら保育園	倉梯幼稚園
タンポポハウス	橋幼稚園
八雲保育園	中舞鶴幼稚園
うみべのもり保育所	三鶴幼稚園
中保育所	舞鶴幼稚園
西乳児保育所	
	中舞鶴小学校



【公開保育研究テーマ】

中舞鶴幼稚園では、人が人として育つための土台を形成すること、想像力、創意工夫する力、探究心や表現力、意欲、粘り強さなどの非認知能力を育てることを大切に、将来大きな木へ成長させるため、心のねっこを育てることを保育目標としている。子どもの興味・関心をもとに環境を構成し、その遊びを充実させ、友達との関わり、人との関わりを深める保育を目指している。

【公開保育の視点】

- ①子どもの興味・関心をもとに環境が構成され、遊びが展開しているか
 - ②保育者や友達と関わっているか
- このような視点の姿が見られるか保育の中で見とってほしい。

公開保育

机、椅子の数、位置など子どもの遊びの様子から、置いていく遊びをより楽しくするためにはイメージを共有するためのモノ(素材・教材)が必要
 ～北野先生 コメントより～



【4歳児だんごづくり】

自分なりにどうすれば思い通りのだんごができるのか試行錯誤する姿が見られました。うまくいわず困っている子には、さりげなく保育者がアドバイスをしたり、友達の様子を聞いたり、関わっておられました。



【3歳 土・砂で遊ぶ】



フライパンや鍋の中に土や砂、水を入れてお玉で混ぜ合わせてお料理したり、お皿に盛りつけたりして遊んでいました。また、お母さん、お父さん役になりきってごっこ遊びをする子や、砂・土、水を使ってだんご作りをしようと施行錯誤している子等、自分の遊びを楽しんでいました。

【北野先生 コメント】

- ◎机・椅子の数、位置など子どもの遊びの様子から、置いていってはどうか。子どもが集中して自分の遊びを楽しむところと、ごっこ遊び等いつしよに遊ぶところの環境設定は違ってくる。
- ◎子ども同士をつなげるところには机、椅子等を置き、ままとは、作業しやすい高さも考える。
- ◎屋根があり、雨でも遊べるところがよかった。

【北野先生 コメント】

- ◎4、5歳児には机の高さは低すぎる様子だったので、子どもの様子に合わせて整えていく。
- ◎園庭の端の落ち着いた空間で遊んでいる子もいたので、そこに机等を置いてみてはどうか。



【5歳児 山遊び～基地づくり、落とし穴づくり】

朝から、裏山での遊びに夢中になっていました。斜面をロープで登ったり、落とし穴を作ったり、基地の中でごっこ遊びを楽しんだり、自分達の世界を作り上げながら遊ぶ姿がありました。基地では、魚釣りに行き、料理をする遊びを楽しんだり、落とし穴にうまく落とすにはどうすればいいか相談したり、斜面を登る時には声を掛け合って登ったり、協同して遊びをすすめている様子がたくさん見られました。



【北野先生 コメント】

- ◎秘密基地の遊びをより楽しくするためにはイメージを共有するためのモノが必要になってくる。木の枝、段ボール等いろいろな素材を取り入れていくとイメージも広がるのではないかと。
- ◎これらの遊びにはストーリー性が見られるので、子ども同士で共有していくともっと楽しくなる。

グループワーク

否定するのではなく、肯定的に経験と共に伝えていく ～北野先生指導・助言より～

公開保育後に参加者同士で保育を語るグループワークを実施しています。①保育の視点にもとづいて記録した子どもの姿②公開保育を見てどう感じたか、感想、質問等③子どもを主体とした保育を実践するために自園では何が必要か、課題は何かについて協議をしました。それぞれのグループで話し合われたことを報告し、公開園の先生や北野先生への質問も出されました。

【グループワーク報告】

- ◎5歳児の振り返りでは集中して聞いていた。言葉でのやりとりがたくさんあった。
- ◎山での遊びは魅力的。秘密基地、魚釣りの遊びは、子どものイメージがふくらみ、葉っぱを魚に見立て、魚の種類に関する言葉や経験の言葉が多く聞かれた。
- ◎落とし穴作りでは、子ども同士で考え工夫する姿が見られた。

【質疑応答】

(質問1)

◎普段からこのような環境を設定して遊んでいるのか。5歳児クラスの「おばけやしき」はいつまで続けるのか。雨の日等、室内でもクラスを越えて遊んでいるのか。

(園回答)

- ◎外の環境は、今、子ども達が興味を持っていることに合わせて環境を変えている。
- ◎3歳児の子たちを驚かせたいとはりきっている。

る。おばけやしきごっこが終わり、満足できたら元に戻すと思う。

◎4歳児のお店やさんごっこ等はみんなで楽しんでいる。

(質問2)

◎子どもがしいの実を「804」数え、数を書く時に「8004」と書いていた。その時の保育者の関わり方についてアドバイスがほしい。

◎時計や数字の表記についてどのように考えたとよいか。

(北野先生回答)

◎よくある間違いではあるが、間違いは否定せず、気づかせることは必要である。保育者が「800」と「4」を分けて○で囲み、その下に「804」と書く。文字も逆さになったり、鏡文字になったりすることはよくあるが、**否定するのではなく、肯定的に経験と共に伝えていく。「間違っている」と否定されると強く残ってしまうことがある。**

◎時間には、「〇時〇分」という時間と「〇時〇分から〇時〇分まで」という時間の間隔という捉え方がある。子ども達は生活の中で経験として使っているが、その理解については個々によって差がある。デジタル時計は単なる数字の並びになってしまいがちなので、「3～5まで」等始まりと終わりが分かる時計が望ましい。視覚的にわかりやすい方が子どもは理解しやすい。経験として時間をどう意識していくかやその子に応じた対応等は考えてほしい。

カンファレンス
北野 幸子先生

行事にも日々の遊びを取り入れ、生活と遊び、行事が分断しないように

～北野先生指導・助言より～

【山での遊び】

- ◎保護者に伝わるようにドキュメンテーションに山での遊びのことを書いてあり、よかった。
- ◎山の環境がとてもよかった。安全、安心をしつかり確保して行ってほしい。
- ◎チャレンジする時(3歳児の山登り)には、しっかり保育者が見守っていた。子どもに経験させて、ほめて認めていくことも大事である。登ることで達成感が味わえる。
- ◎山での遊びは、①登ること②モノに対する気づき＝葉、木の実、枝③場所に対するこだわり、イメージ＝基地、家④ストーリー性、のように広がっていくとより楽しくなる。
- ◎イメージを豊かにするための素材(段ボール、木)があるとよいと思う。イメージを持つことで、ごっこ遊びにもつながり、役割分担もできる。
- ◎基地等場所へのこだわりがあり、大事なところだからこそ、綺麗にしようとする。そして思い入れもできる。
- ◎廃材などたくさん使い、保育者も楽しんで保育してほしい。



【おばけやしき】

- ◎6月から続いている遊びではあるが、運動会等の行事の期間はどうしても途切れてしまう。**行事にも日々の遊びを取り入れ、生活と遊び、行事が分断しないように工夫してほしい。**
- ◎行事(運動会、生活発表会等)にも「おばけ」を取り入れ、ストーリー性を持たせていくと楽しくなる。
- ◎子ども同士が話し合った結果や内容を書いてあり、子どもにとっても共有できるようになっている。
- ◎子どもの創意工夫、オリジナリティは自尊感情につながっていく。

【3歳児】

- ◎子どもが落ち着いている。
- ◎保育者は経験が豊かなゆえに子どもの姿を先々予想しすぎてしまいがちである。時には、待つことも大事であり、子どもが訴えてくるまで待つてみてはどうか。
- ◎フックスライダーの遊びは、子どもたちに考えさせ、創意工夫して楽しめるように見守ってはどうか。
- ◎**順番通り、手順通りではなく、予測しないことが出てくることを期待して見守ってほしい。**

【4歳児】

- ◎保育者と子どもの信頼関係ができています。だからこそ、振り返りは、スクール形式(対面)ではなく、サークル形式にし、子ども同士が話せるように保育者がつなげていくよいと思う。
- ◎一人一人の単発の発言ではなく、ひとつの

発見や遊びをみんなで広げて、やりとりするともっと楽しくなる。

【5歳児】

◎「いいよ」「いいんじゃない」等受け入れの言葉、優しい言葉が聞かれた。振り返りでも子ども同士のつながりを意識していくと、もっと遊びが広がっていくのではないかと。

【その他】

- ◎お片づけの際、BGMが流れていたが、子どもが考えて片づけていくことも大切ではないか。
- ◎デンマークでは、給食、午睡など自分で考え決めている。**ルーティーン化しているものこそ自分で考えるようにするとよいと思う。**
- ◎机は4、5歳には低い。3歳にはちょうどよかった。遊びを見て、大きさ、高さを考えるとよいと思う。遊びも発展していくのではないかと。



11月8日 ドキュメンテーション研修を実施しました

参加園

永福保育園	朝来幼稚園
さくら保育園	池内幼稚園
タンポポハウス	シオン幼稚園
八雲保育園	鶴舞幼稚園
うみべのもり保育所	
中保育所	
西乳児保育所	

4グループ(1グループ4人～5人)に分かれて行ったグループワークでは、事例のドキュメンテーションをもとにワークシートを活用しながら、遊びの中の育ちや学びを読み取り、グループごとに協議を行いました。北野先生には、ドキュメンテーションの一つ一つについて、改訂(定)保育所保育指針(以下:指針)や幼稚園教育要領(以下:要領)の「保育の内容」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」(以下:10の姿)と照らし合わせながら解説していただき、ご指導いただきました。ドキュメンテーションを提供して下さった先生はもちろんのこと、参加の先生方も多くの学びを得ることができました。ドキュメンテーションを提供して下さった先生方ありがとうございました。



0歳児の発達は5領域よりも未分化である。
「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」
 の視点をういて書く。
 ～北野先生 指導・助言より～

【0歳児のドキュメンテーション: 気づき

の場面/外遊びの場面】

◎0歳児の発達は5領域よりも未分化である。指針の「乳児保育に関わるねらい及び内容」の「**健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」**の視点をういて書く。

◎この事例は「身近なものに関わり感性が育つ」という分野の育ちであり、いずれ、「10の姿」の「自立心」「豊かな感性と表現」につながるものである。

◎0歳の発達として、まず自分が物に何か関心を持って気づいている。これが、後に探索活動や単語の習得につながるということから、0歳児のテーマとして「気づき」はよかった。

◎興味・関心を持つ、探索、諸感覚を使いながらという発達の特徴を書いていく。

◎子どもが「なぜ」気づいたのか、「どうして」試したのかに注目することで、どんな感覚を使って物と関わっているのか、きっかけや背景に気づける。

◎そのことで必要な環境構成や関わりの工夫を振り返ることができ、保育者としての専門性が書きやすくなる。

【1歳児のドキュメンテーション: スライム遊び】

◎「～みたい」という子どもの声からイメージを持ち、見立ての育ちがある。

◎1歳を過ぎると保育者の共感の言葉かけや意図的な言葉かけも記載し、子どもの発達に応じた言葉かけをしているという保育者の専門性を書いていく。

◎好奇心・探求心が見られる事例をドキュメンテーションで書く。

◎スライムの感触を確かめている場面は、指針の「環境」の内容にあたる。その言葉・キーワードを使って書く。

◎ものに触れる中で物の性質や仕組みに気づく(環境: 内容③)ということが、**遠い先の先には、育みたい資質・能力の「知識及び技能の基礎」につながる。気づく、興味を持つ、物の特徴を経験的に体験的に味わい知り、深めていくことが、小学校教育の根っこになる。**

【2歳児のドキュメンテーション: エプロンシアターを見ている場面】

◎2歳児の発達である繰り返しの展開を好んだり(言葉: 内容の④)、感情移入して物語に入り込む(表現: ねらい②内容④)という場面である。

◎まとめの考察に5領域や「10の姿」の言葉が入るとよいのではないかと。

◎保育者の専門性を謙虚にならず、もっと書いてほしい。どんな工夫をしたか、どんな意識を持っていたか、環境構成、関わり、援助の工夫などを1つでも入れるようにしてほしい。

【3歳児のドキュメンテーション: お医者さんごっこ】

◎人といふことの楽しさを感じる、他者への関心が高まっている、ごっこ遊びの宝庫という3歳児の育ちがみえる場面である。

◎子ども達がなぜ興味を持ったか、なぜ気づいたかという背景までしっかりと書いてある。

◎イメージが盛り上がるには媒体となる遊具・教具が必要であり、子どもの姿に応じて保育者が用意したことが記入してあることがよいと思う。

◎「健康な心と体」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「協同性」の育ちの部分も記載してはどうか。

【4歳児のドキュメンテーション: 製作活動の場面】

◎ねらいに使いがちな“～イメージしながら作る”では保護者は“作ったもの”という結果に注目してしまう。プロセスに注意を向ける言い回し“作中で創意工夫する”“イメージしながら作ることを楽しむ”“自分らしさを発揮する”等、にしてはどうか。

◎試行錯誤している様子もしっかりと記載されているが、“完成”という言葉と完成の場面が目立つため、結果主義に陥っている保護者が結果だけに注目しがちなレイアウトになっている。

◎途中の試行錯誤、創意工夫、協力しているところに注目させて、できあがり提示しすぎない書き方を考えてみてはどうか。

【5歳児のドキュメンテーション: ボーリング遊び/竹馬】

◎場面の中に含まれる「10の姿」に○を付け

る項目がある用紙であるが、保護者には子どものどんな姿がどこにつながるのかが、わかりにくいように感じる。

◎「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」の項目に○がついていても、その中の「数量」に関する部分のみの学びである場合、誤解を生むこともある。

◎書いている場面の内容よりも広い範囲(文章に表れてない場面)のことまで、考察を書きしまっていないか気をつける。

◎5歳児としての大切な育ちが考察にしっかり出ているため、考察の発達のキーワードが子どものどの姿か、見てわかりやすいように一致させてはどうか。

◎竹馬の場面では、特に保護者にとっては結果主義でとらえやすいと思う。互いに認め合う・繰り返し挑戦する姿を「健康な体」「自立心」「協同性」「思考力の芽生え」、充実感等の学び・育ちに注目して書くことよいのではないかと。

【全体を通して】

◎**結果主義の表現を控えるようにする。“上手にする”“～した気になる”“～できた”などという表現は避ける。**

◎保育者の関わり、指針にある発達のキーワードをういて書くように意識する。また書き終えた後に保護者の目線に立ち、**結果主義の表現になっていないか、様子や学びがわかりやすいかをもう一度見直すことが大切である。**

